

5 / 1

水分小児童が 交通安全を呼びかけ



地域の人々が沿道で見守る中、交通安全を訴えた児童たち

水分小学校(小原眞一校長)は今年で38回を数える交通安全パレードを開催しました。全校児童75人のほか、水分地区の交通安全協会や交通安全母の会、スクールガードの皆さんなど合わせて約120人が参加。水分小学校からJAいわて中央水分出張所までの区間をパレードしました。JAいわて中央水分出張所で行われた交通安全セミナーでは、6年生の野村ふく葉さんが、自身が交通事故に遭いそうになった経験を話し「自分の命は自分で守るということを忘れずに過ごしましょう」と呼びかけました。

4 / 24

巽聖歌をしのぶ 碑前祭



巽聖歌の45回目の命日に開催されました

日詰地区先人顕彰会(内城弘隆会長)は紫波運動公園内にある「水口」の詩碑前で碑前祭を開催しました。聖歌の縁で実現した東京都日野市との姉妹都市締結後に行われる最初の碑前祭。約80人が「たきび」をはじめとする聖歌ゆかりの歌を合唱した後、声を合わせて短歌を朗読しました。聖歌の兄の孫にあたる野村吉己さん(赤石地区)は「東京に住む親戚とは、互いに日野と紫波で『たきび』の火を消さないようにと話しています。今後も活発に交流したいです」と思いを話しました。

5 / 13

100歳おめでとう! 田村トメさん(佐比内)



お祝いの花束を受け取った田村さん(中央・写真は5月16日)

入所する上平沢地区の施設で、入所者やお祝いに駆けつけた町長、家族、友人から盛大にお祝いを受けた田村さん。チョコレートなどの甘い食べ物が好きで、おおらかな性格がご長寿の秘訣とのこと。次男の田村良八さんは「母は83歳まで県外の酒蔵で出稼ぎをして、私たちを育ててくれました。長生きしてほしいです」と感謝の気持ちを話しました。

町内の100歳以上のご長寿は田村さんを含めて20人で、男性1人、女性19人です。(5月31日現在)

5 / 3

見ごろを迎えた ミズバショウ群生地



じっくりとミズバショウを眺める家族

第13回山屋ミズバショウまつりが山屋地区の峠のミズバショウ広場で開かれました。山屋夢楽づくり実行委員会(菅原正勝委員長)が主催したこの催しには、見ごろを迎えたミズバショウを観賞しようと約400人が来場。美しくミズバショウが咲く景色に包まれながら、山屋田植踊を観賞し、地元のそばや山菜などを楽しんでいました。矢巾町から家族6人で訪れた谷地有紗さんは「ミズバショウは水がきれいな場所ではしか見られないと聞いたことがあります。初めて見たミズバショウはとても美しかったです」と感動していました。

5 / 23

豊作を願い丁寧に 田植え～紫波三中～



地域の方々と一緒に田植えに励みました

紫波第三中学校(佐々木徹哉校長)の2年生45人は、志和地区にある新里祐之さんの水田で田植え体験を行いました。長年指導に当たる新里哲之さんから田植えの仕方を教わった生徒たちは、はだして田んぼに入り、「ひとめぼれ」の苗を手で丁寧に植え付けました。9月に収穫予定のお米は10月に東京都の「いわて銀河プラザ」で生徒たちの手で販売される予定。吉田梨乃さんは「食べた人たちにおいしかったと思ってもらえるように育てていきたいです」と今後の作業に意欲を見せました。

5 / 16

6次産業化を学ぶ 紫波総合高直売所



訪れた客からは「今年の野菜苗は特に立派」という声が聞かれました

紫波総合高校(渡邊好章校長)のエコロジー・フード系列の3年生たちが生産・加工・販売を手掛ける直売所「かしわの里」が今年もオープン。「毎年この日を心待ちにしています」と話す常連客が多く集まりました。大橋元気さんは「初めて接客を体験し、お客さんとのコミュニケーションを取ることができました。立派な野菜苗やきれいな花々が並んでいるので、ぜひ来てほしいです」と呼びかけました。すでに直売所の前期の営業は終了しましたが、9月下旬に後期の営業を始め、鉢花や加工品、野菜などを販売する予定です。

5 / 31

町内郵便局と災害時など における協定を締結



協定書に署名をした(左から)村上正勝日詰駅前郵便局長、高岡隆紫波郵便局長、熊谷町長

町は、町内の郵便局と「災害発生時の対応と平常時における高齢者等見守り活動の相互協力及び道路損傷等発見時の対応に関する協定」を取り交わしました。この協定は、郵便配達時などの日常業務における見守り活動や道路損傷箇所などの情報提供のほか、災害救助法適用時の避難者情報の相互提供を行うもの。町内の郵便局を代表して、高岡隆紫波郵便局長は「地域と共に生きる郵便局として、協定にある活動内容は企業の責務と考えています。異変を察知した際は看過なく報告し、今まで以上に地域を見守っていきます」と協力を誓いました。

5 / 26

田植え作業を通じて食の 大切さを学ぶ～赤石小～



11月の収穫祭では、餅まきが行われる予定です

赤石小学校(妻田篤校長)の5年生76人は、同校北側の水田7アールに、「ヒメノモチ」の苗を植えました。児童たちを指導する鎌田衆一さんは「子どもたちには自然の恵みを実感してほしいです」と語ります。鎌田さんから苗の植え方を教わった後、苗を30cm間隔で丁寧に植えた児童たち。泥の中で転びそうになったり、顔まで泥まみれになったりと、にぎやかな歓声や笑い声が響き渡る体験学習となりました。田中由希さんは「苗が大きくなっていくのを登下校のときに見るのが楽しみです」と笑顔でした。